

1 研究テーマ 読み方を身につけ、自力で読み進める子どもが育つ国語学習 ～物語文の学習の工夫と改善～

2 はじめに

物語文の学習で、児童にどのような力をつけてきたのか、どのような指導をすれば物語を読み取る力が児童につくのか、私はそれらの問いに明確に答えることができるような学習を、これまでできていなかった。教師にも児童にもどのような力がついたのか分かり、児童が、学んだことを自ら活用していくことができるようにしたい。このように考えて、本研究に取り組んだ。

3 研究の目的

「読むための観点」を学習に入れ、それを活用できるようにすることで、子どもたちの自力で物語文を読む力を育てる。

4 研究の内容

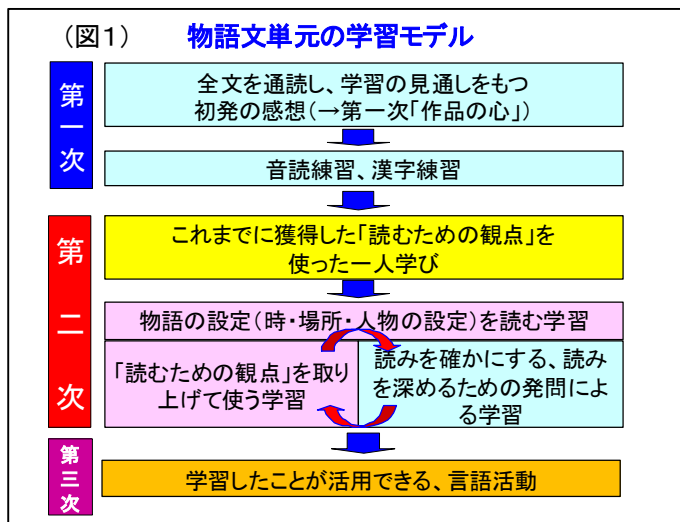
(1) 「読むための観点」の設定

物語を読むためにはどのような力が必要かを考え、「読むための観点」を設定し、系統的に配列した。
(表1 ※一部省略)

学年	題材名	使える「読むための観点」																
		物語の設定を読み取る力						情景や心情を読み取る力		人物の心の変化や主題を読み取る力			批評する力					
1年	サラダげんき	作者		登場人物														
	おとうとねずみチロ	作者		登場人物	中心人物													
	はるのゆきだるま	作者		登場人物	中心人物	時(いつ)		場所										
4年	夏のわすれもの	作者	語り手	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所			クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名			
	世界一美しいぼくの村	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所			クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	
	ごんぎつね	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所	オノマトペ		クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	
5年	ちかい	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所			クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	人物批評
	注文の多い料理店	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所	オノマトペ	比喩 色	クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	作品批評
6年	ヒロシマのうた	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所			クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	人物批評
	海のいのち	作者	語り手	視点人物	登場人物	中心人物	対役	時(いつ)	時(期間)	場所		比喩	クライマックス	あらすじ	心の言葉	題名	作品の心	人物批評

■ は、初めて指導する観点 (2, 3年は、本表では省略してある)

(2) 物語単元の学習モデルの作成



児童が、「読むための観点」に対して、必要感や有用感をもち、活用できるようにするためには、どのような学習を組んでいけばよいかを考え、物語単元の学習モデルを作成した。(図1)

この学習モデルのポイントは、以下の3つである。

- ①第二次のはじめに、既出の「読むための観点」を使って自分の力で読む、「一人学び」の時間を入れた。
- ②いくつかの「読むための観点」を取り上げて読み取る学習を入れた。
- ③第三次として、学習した観点が活用できる言語活動を入れた。

(3) 仮説の検証と考察

① 一人学びについて

検証対象のクラスは、観点を意識した学習はできていないので、7月に右のグラフにある項目のうち、「視点人物」以外の10の観点を知らせて、一つ一つについて読み取る学習をした。

グラフ1は、11月、「ごんぎつね」を一人学びした段階で、正確に読み取れているか分析した結果である。

・「クライマックス」「時(期間)」「あらすじ」「題名」は、読み取れていないが、物語の設定は、かなり読み取れている。

・「題名」は、題名が何を表しているかを考えるように

求めているが、児童は、題名を答えればよいと考えてしまった。

上記のことから、7月に学習して、2度目ということを考えれば、学んだことがかなり蓄積されているといえる。継続的に取り組めば、もっと確かなものになるのではないかと考えられる。

② 「読むための観点」を使って読む学習について

「あらすじ」の学習

(図2)

中心人物

どう変わったか

「〇〇が、……によって、……する話。」
「……になる話。」

クライマックスのできごと

という形にまとめさせた。

今回は、中心人物の前に、**どんな人物として登場したか**をつけるように指示した。

(筑波大学附属小 白石範孝氏の実践)

第二次のはじめに、「中心人物」が、冒頭で、どのような人物として登場しているかを読み取った。その上で、第二次の後半に、「クライマックス」がどこかについて考え、その後「あらすじ」をまとめる学習をした。あらすじは図2のように指導した。

「あらすじ」として児童が書いたのが、下記のものだ。

〇ずっとひとりぼっちだったごんが、兵十に分かってもらったことでうれしく思いながら死んでいった話。

〇ひとりぼっちのごんが、気づいてもらったことによって二人になってうれしく思ったけど、死んでしまった話。

ここでは、ごんのさびしさを読み取った上で、ごんの心の変容を読み取ることができている。「クライマックス」で、どう心が変わったのかを考えたとき、人物設定を読み取ったときの、「ひとりぼっち」「さびしい」という気持ちと、兵十のことばにうなずいたときの気持ちとを結び付けて考えたのだと思われる。

また、学習後の児童の感想には、次のようなことが書かれていた。

- 〇わたしは、丸井先生との授業をして、こんな考え方があるんだなあと思ったし、みんなと考えをこうかんし合うのも楽しかったです。いろいろなことを考えて、おもしろかったです。
- 〇ごんぎつねの学習をして、ちょっとむずかしかったけど楽しかったです。(中略) 考えるところがごちゃごちゃでなくてよかったです。

「読むための観点」は、考える手がかりや、根拠に基づいた読み取りができているかの判断規準となるため、自分の考えをもつことができ、友達と考えを交わし合うことが楽しかったのだと思われる。

5 研究の成果

- 〇児童は、「読むための観点」を覚えて使うことで、一人学びができるようになることが分かった。
- 〇「読むための観点」を使った学習をすると、叙述を根拠に自力で読めるようになり、自分の考えをもつことができるようになることが分かった。

6 今後の課題

- 〇「読むための観点」を見直す(他に必要な観点、不要な観点、定義の適否)
- 〇「読むための観点」の有用感、必要感を高める言語活動のさらなる研究

7 おわりに

読む力はスパイラル的に伸びていくものであり、一人の取り組みで伸ばしていくには限界がある。さらに研究を重ねるとともに、校内での共通理解を図り、全職員で取り組むよう働きかけていきたい。

